

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 社会福祉法人 愛全会.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者総合福祉施設の5階に併設されている3ユニットのグループホームです。閑静な住宅街に立地しており、交通の利便性にも恵まれております。5階最上階から、藻岩山・手稲山・札幌の街並みを一望でき、美しい夜景や花火大会の鑑賞など四季を感じられることも特長の一つです。共有面積が広く設けられているので、歩行運動や散歩を楽しんで頂くことができ、また総合福祉施設の機能を利用してカラオケ、喫茶コーナー、御家族様と過ごして頂けるファミリーダイニングの提供など、生活の幅を広げて楽しんで頂いております。町内会の一員として地域の商業施設の利用、お祭りやイベントで積極的に交流し、情報を発信できるグループホームを目指し、また運営推進会議への参加や隣接するアネックスで開催のオレンジカフェ、地域食堂等をご利用頂き情報交換に務めています。職員は入居者様の尊厳を支え、生きがいのある時間を送って頂けるように、日々事業者内外の研修に参加し、自己とチームの研鑽に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0170503189-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りの地下鉄駅から徒歩10分弱、平岸の閑静な住宅街に位置する大型複合施設の5階フロアにある3ユニットの事業所である。窓からは市街地や遠くの間山々を望み、花火大会を居ながらにして堪能できるロケーションである。事業所は、日々その人らしく、生き生きとした時間を過ごしてもらえるよう、ユニット内9名の集団生活の支援と、一人ひとりの思いに添った個別支援に取り組んでいる。利用者は、回廊式の事業所内を自由に行き来し、テラスでのお茶会やユニット間交流を楽しみ、多彩な趣味サークルや外出行事、また他階の施設行事等にも参加している。日常のゆったりとした時間の中で、多種多様な活動とのバランスが良く、調和の取れた穏やかな暮らしを提供している。家族との対話重視の姿勢、食の満足感への取組みも充実している。職員は研修により、良質のケアと、個人の尊厳を大切にされた接遇を身に付け、笑顔で安定感のある対応で利用者を支えている。地域との関係作りは施設全体の方針であり、今回の胆振東部地震では炊き出しをして相互協力や貢献に努めており、事業所としても、ボランティアや学生、実習生の受け入れ、地域の祭りや行事に参加するなど、積極的に地域交流の実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 7 rows of evaluation items (No. 56-62) regarding staff support, user activities, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が自分らしい生活が継続できるようご本人やご家族様からの情報をもとにケアプランを作成し、達成できるよう支援することを理念として認識しています。	法人理念を基本線に、ユニット独自の理念は見直し検討の経過を経て、全職員で共有している。理念はユニット入り口に掲示し、入社時や申し送り時などで確認し、日常のケアサービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加や地域のスーパーマーケットや、美容室の利用、近隣への散歩等で挨拶などを行い、グループホームの理解に向けて情報発信を行っています。	積極的に地域交流に努めており、花壇作りなど地域行事に参加し、よさこい祭りでは福祉席の配慮を頂いている。施設行事を通して通所利用者とも触れ合う機会がある。各種ボランティアの来訪、中学の体験学習や専門学校実習生も頻回に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の中での地域の方との交流の際や運営推進会議を通して認知症への理解や支援の方法を深めて頂くよう働き掛けています。地域の学生の総合教育の受け入れや実習生の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の代表や入居者様、ご家族様、地域包括職員の参加で運営推進会議を行い、行事報告、事故報告をお伝えすると共に意見や要望お聞きし、サービスの向上に努めています。	会議は、行政や地域、家族の協力で定期開催し、数名の利用者の参加で発言を促している。法人および3ユニット毎に報告を行い、地域情報等も共有し、意見交換を深めている。次回より地域代表の増員が見込まれている。	家族には会議案内や議事録を送付し、参加を呼び掛けているが、少ない状況は続いている。会議日程等の調整を図り、更なる会議の活性化に向け、家族メンバーの参加拡大の取組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所との交流の中情報交換を行い、サービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	市や区との連絡は主に法人本部が行っている。事業所では、運営推進会議や市の管理者連絡会で行政関係者と接する機会その他、認定更新や利用者状況の報告等で、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が中心となり、カンファレス等で虐待の定義について十分に話し合い、理解を深めてマニュアルに基づいたケアを行っている。	身体拘束適正化の指針を定め、3ヵ月毎の委員会内容を職員に周知している。研修を行い職員自覚の下、拘束の無いケアを実践している。日常的な啓発として具体例を取上げ、適切な支援と結びつける機会を設けている。利用者の外出や他階に行きたい要望には、都度職員が同行し閉塞感なく過ごせるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会が中心になり高齢者虐待防止システムによる研修会を行い、全スタッフの理解浸透に努めています。法令遵守、倫理等の研修も行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修により理解を深めるよう努めています。必要性がある場合には関係機関と協力している様体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添ってわかりやすく説明させて頂き、入居者様やご家族様の身体面、心理面、社会面等の疑問や不安をお聞きし、理解された上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やご家族様アンケートの実施で意見要望等を取り入れ反映させています。また来訪時や電話、手紙等で近況を報告しその都度入居者様、ご家族様からご意見を汲み取る努力をしております。	通信や個別便り、電話等で利用者の日常生の情報を報告している。積極的に家族と対話し、ケア面の要望はニーズとして介護計画の反映に繋げている。アンケートの調査結果を活かし、サービスの質向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の愛全会グループホーム管理者連絡会議において意見交換をし、様々な業務改善に繋がるよう努めています。また年2回の人事考課表の提出で職員の意見や要望を聞く機会を設け、安全対策業務効率化委員会による職員のストレスアンケートを実施し改善に取り組んでいます。	各ユニット会議やグループホーム管理者会議を開催し、職員の意見や要望を吸い上げ、情報交換を行い、備品購入や業務改善に繋げている。また、人事考課制度による個人面談、随時の面談でも意見交換を行い、個々の意見を反映して働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告書で個々の目標等を述べる機会があり面接も併せて行っております。資格取得後は資格手当が支給され、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のグループホーム研修や外部の研修にそれぞれの職員の年数や力量、スキルに応じて参加を支持し、自身のスキルアップと自ユニットへの還元を目的に育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各区の管理者連絡会議の研修会に職員も参加してもらい、情報交換を行って自事業所のサービス向上に反映させています。法人内でも委員会においてユニット間の意見交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前の事前訪問でご本人様やご家族様に要望や不安などをお聞きし、安心してご入居して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様が不安に思っていることや将来の事など初期面談の中で不安やご希望をお聞きし、できる限り支援させて頂くこととお話しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思いや心身状態を確認し、必要なサービスの利用が出来る様に対応をして、初期プランに反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役がご本人様である事を職員全員が常に意識し、その方のペースに合わせた生活をする事で、家族的な関係になるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いに寄り添いながら日々の暮らしのご様子や、気づいた事をお便りや来訪時にお伝えしています。また行事にお誘いし、ご本人様とご家族様の共有時間が持てるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人との面会の支援、思い出の場所での食事や買い物などで楽しめる様、また日常生活の中でご本人の思いを伺い支援に努めています。	職員に大きな変動がなく、利用者と安定した関係が継続されている。デイサービスの友人や親しい人達の来訪など、共に過ごせる機会を大切に支援している。懐かしい場所での食事や、冠婚葬祭に出席するなど、生活歴や大切な事柄など個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを取りにくい入居者様にはスタッフが間に入り、孤立する方がいないように配慮した環境に努めています。またユニット行事や外出レクリエーションで利用者様同士が係わりを持てるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去された方にはその後の情報を確認し、お見舞いやご家族様に連絡を入れる等、関係を継続しています。また各関係機関への紹介も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去や現在の生活状況を踏まえてアセスメントを行い、日々の関わりで表情、言動を観察し、ご自分の意思を伝えられない場合であっても希望や思いを引き出すよう努めています。	入居時の基本情報に加え、半年毎のアセスメントで本人・家族の聞き取り情報を蓄積している。日常生活で表情や仕草、さりげない一言を受け留め、1対1で話を聞くなど、利用者本人に添い思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様また関係機関から入居前の生活歴や生活環境、サービス利用の経過などをお聞きし、ご自分らしい生活が継続できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、その方のできる事、少しのお手伝いのできる事などを把握して支援することで喜びが増えるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで、モニタリングと評価を行い、ご本人様、ご家族様の要望や、医師・看護師の意見を聞きながら内容を検討し、介護計画書を作成しています。	計画の実施状況や日々の様子を詳しく記録し、本人の状態像の把握に活かしている。定期的にモニタリング、評価を行い、本人や家族の意向、医療関係者の助言を得て、カンファレンスを通して介護計画を作成している。計画は、実践可能な具体性を持って作成するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付いた事は申し送りやカンファレンスで情報共有しケアプランに添った記録をしています。その方の行動、表情を具体的に記録し、ケアプランの見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望、状況に応じて通院入院などは可能な限り施設の車両を利用しスタッフが同行しています。また訪問歯科、往診なども必要に応じて利用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の花壇作り、お祭り等に参加したり、近隣のスーパーでの買い物や美容室の協力を得て、気分転換やおしゃれをして楽しんで頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に添ってかかりつけ医を選択して頂いています。また緊急時の往診や個々の病状に合わせた他医療機関との連携の支援も行っています。	協力医療機関のほか、入居前からのかかりつけ医を継続し、訪問診療医の受診支援、他科の通院受診は家族が付き添い、緊急時は家族と協力して対応している。事業所看護師が日常の健康状態を管理し、受診結果は速やかに家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のアビターレ看護師による健康管理があり、心身の状態について報告しています。また緊急時には24時間対応可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様への支援情報を医療機関に提供しており、また安心して治療を受け早期に退院できるよう職員がお見舞いに行く都度ご家族や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応しうる最大のケアについて説明しています。また重度化した場合でも協力機関と連携をとり、ご本人様、ご家族様にとって最善の方法を話し合っています。	重度化や終末期の支援体制は、契約の際に説明し同意を得ている。状態の変化に応じ、関係者間で意向確認をし、方針の共有を密にしている。看取りケアでは、本人の思いを尊重し、主治医と家族、職員の三者の連携の下で、終末期を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体で救急対応が出来る様、定期的に内外の研修会に参加し技術や知識を身につけています。また3ユニットで連携が取れるように事業所緊急連絡網があります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日防火点検表でチェックしているほか、年2回の日中・夜間を想定した避難訓練で防火の意識を維持しています。また風水害時の理解と避難方法は必須研修となっています。	年2回施設全体で火災避難訓練を行い、懸案であった地域との緊急連絡網を結び、協力体制構築を進めている。備蓄品を準備し、非常時対応をレクに取り入れ自主訓練を行っている。法人全体で胆振東部地震を検証し、夜間の地震後火災想定や避難場所移動の訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の自尊心が高められ維持できるよう尊厳に配慮した言葉かけや、また羞恥心に配慮したケアを心掛けています。	職員は、尊厳やプライバシーについて、接遇研修はじめ様々な場面で理解を深めている。日常の意図しない言葉かけや対応は注意し合い、一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい言葉かけや選択できるまでお待ちするように配慮している。意思表示が難しい場合でもサインや行動、表情を見逃さないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクリエーションなど毎日の流れがお一人お一人のペース、体調、希望に添って生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみの支援に努め、また化粧やヘアースタイルなどはその方らしいおしゃれができるようお手伝いします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり調理や盛り付け、後片づけなどそれぞれの得意とする部分が活かせるよう支援しています。季節を感じる食材や食器にもこだわり楽しい食事になるよう雰囲気づくりを工夫しています。	食事作業は、利用者個々の持てる力を引出して皆が参加できる工夫をし、利用者と職員が食卓を囲み、和やかで落ち着いた食事風景である。利用者の好みやリクエストは自主メニューや誕生会、行事食で取り入れ、美味しく楽しい食事や満足感に応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立メニューを提供しており、お一人お一人の状態に合わせて刻み食・とろみ食・栄養補助食品等工夫してお出ししています。またご本人様の嗜好や基礎疾患に配慮して栄養や水分量の確保ができるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設内に週一回の歯科訪問があり必要時に利用しています。また毎食後の口腔ケアの声かけ、出来ない方にはお手伝いで口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の生活リズムや表情を把握して尊厳に配慮したトイレ誘導を行い、難しい方も出来る限りトイレでの排泄を行い不快感が軽減出来る様支援しています。	必要に応じて排泄状況を記録している。利用者其々のリズムや様子の察知でトイレ誘導し、排泄の自立に向け支援している。衛生用品は適宜検討し、布下着への移行にも取り組んでいる。トイレは奥まった場所にあり、失敗時もさりげない対応でプライドや羞恥心に充分配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し医師、看護師、薬剤師と連携を取って便秘対策を行っています。また毎日の体操への参加や食物繊維の多い食材の工夫などで、便秘による体調不良が起きないように観察しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能で、午前午後などの希望も取り入れています。好みの入浴剤や皮膚の状態に合わせた石鹸を使うなど気持ち良く入浴できるよう支援しています。	週2回の入浴を支援し、毎日の入浴や友達同士、同性や二人介助など、本人の希望や状態に応じて対応している。入浴拒否には無理強いせずタイミングを図り、徐々に入浴に繋げている。季節のゆず湯や入浴剤、湯上り飲料を用意して、ゆっくと入浴できる環境を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調、習慣を基に安心して休める環境を提供しています。入床や起床時はご本人のリズムに合わせています。また日中の活動を通して夜間ぐっすり眠る事が出来る様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の下、医師、薬剤師と連携を取り職員間でも処方薬の学習をし、安全な服薬支援を行っています。服薬時は2名のスタッフとご本人様の確認のうえ内服して頂いています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で喜びや楽しみを再発見したり、生活歴からその方の役割や力が発揮できるような場面を作るようにしています。また趣味の継続や気分転換で外出、外食の支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣のスーパー、美容室、散歩(施設の庭や公園)に出かけています。また、季節ごとに行事計画を立てて、花見、紅葉狩り、コンサート、動物園、水族館、食事などに出かけています。その他希望をお聞きして個別対応にて外出を行い楽しんで頂ける様努めています。	外出行事はユニット毎に企画し、季節の花々を楽しみ、動物園や近郊の公園、外食や買い物ツアーなど、集団や個別で行きたい場所への外出を支援している。日常でも、近隣の散歩や買い物、テラスで外気浴やお茶会、2階のデイサービスのカラオケルームを利用する事もあり、戸外活動はじめ施設内設備を利用して、楽しみと気分転換の機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはユニットで管理していますが、お金を所持できる方は売店やスーパーなどで買い物し、お金を使うことの満足感を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの希望時やご家族様、ご友人からの電話の取次ぎ、また携帯電話の方は充電や希望により履歴等の確認を行い大切な関係維持の支援に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングで居心地よく過ごして頂ける様に軽音楽やDVDを流したり、季節に合わせた飾り物などを一緒に飾っています(ひな人形・七夕飾り・クリスマスツリー・テラスの鉢植え等)。また職員が業務で発する音や会話に注意し、入居者様が落ち着いて生活できるよう配慮しています。	5階フロアの事業所内は回廊で結ばれ、利用者は自由に屋内散歩で行き来し、廊下の椅子で休憩する事ができる。リビングはゆったりと優雅さが漂う設えで、アイランドキッチン、季節の装飾や観葉植物、利用者の秀作などが家庭的な潤いを醸し出している。温・湿度、気になる音なども配慮され、居心地良い環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分の廊下には椅子・テーブルを置き一人で窓の外の景色を楽しまれたり、3ユニットの入居者様の交流の場として活用して頂いています。ユニット内でも様子に合わせてテーブルやソファの配置を工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談して使い慣れた物を持って来て頂いております。居室にご自分で作った作品などを飾り、なじみの空間で安心して過ごして頂けるよう配慮しています。	居室には、クローゼットや洗面台が備えられ、スッキリと清潔感があり、毎日の整容も気兼ねなくできる環境である。大切な品や愛着のある物、趣味の材料などが持ち込まれ、安全な配置と、その人らしい心地よい居室に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のわかる事、出来る事に応じて見やすい時計や日めくりをかけたたり、わかりやすい目印を付けたり、転倒等がない様に環境整備を行いご本人様が安全で自立した生活が送れるように努めています。		